

令和3年度 練馬若年認知症サポートセンター 事業報告

はじめに

若年性認知症を中心とした専門性の高いデイサービスを展開し、利用者に対しきめ細かい介護サービスを提供していくことで、在宅生活が維持できるよう支援した。

若年性認知症への理解と普及・啓発活動を行い、利用者及び家族が地域社会の中で安心して生活が出来るような環境の確立に努めた。

利用者へは、本人の社会参加意欲に応えると共に、ボランティア活動を通じて地域との交流、他者とのコミュニケーションを図り、若年認知症の進行を緩やかにし、居場所づくりをしながら「いきいきと住み慣れた地域での生活」が送れるよう支援し、同じ目線での話しかけを心掛けたケアを実践した。

重点事項

- ① 若年性認知症を中心としたデイサービスの向上に努め、QUALITYの高い事業展開を行った。
 - ・ 同じ目線で話しかけ、優しく触れるユマニチュードを取り入れたケアを行った。
 - ・ 二つの動作を同時に行うデュアルタスクを取り入れた脳内トレーニングを行った。
 - ・ 練馬区と連携した環境ボランティアを行った。
 - ・ 練馬区と連携した安全・安心見回りボランティアを行った。
- ② 質の高いサービスを提供できるよう人材育成に努めた。
- ③ 利用者本人および家族の抱える問題を把握し、地域と連携をとり、より良いサービスが提供できるように努めた。
- ④ 若年性認知症への理解と普及・啓発に関係機関に働きかけ、取り組みを行った。

2 利用対象者

若年性認知症等40歳以上65歳未満で介護認定が要支援以上の方。

3 事業内容

1 地域密着型通所介護・介護予防通所介護（一般デイ、若年性認知デイ）

- (1) 利用定員 1日 7名
- (2) 利用日 月～土曜日
- (3) 利用時間 午前8：30～午後4：45（送迎時間含まず）
- (4) 事業実績

令和3年度も、利用者一人一人に合ったサービスを実施、関係機関及び家族との連携を強化することにより、サービスの質の向上を図ることを目標として1年間事業を行ってきた。

年間の稼働率は平均約60%（実績⑥）であった。前年度と比較して減少した。

利用開始時と比べ認知症の進行や運動機能の低下により、在宅生活並びに在宅介護が困難になった要介護度の重度者が相次いで他事業所へ移行し、稼働率の減少が顕著であった。また新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、利用者および家族の入院・入居、ならびに保健所の指導の下、余儀なく一時、休業をしたことも稼働率低下の一因となった。普及・啓発活動により、新規利用者は増加したが、要介護度が軽度なため、先行きを考慮し出費を控える傾向や区分支給限度基準額の制約もあり利用回数が制限され、稼働率の急速な増加へは至らなかった。

(5) サービス内容

① 地域密着型通所介護計画に基づくサービス提供

ケアプランに基づいた適正な地域密着型通所介護計画を作成し、利用者及び家族の意向と状況把握並びにユマニチュードケアに努め、全ての利用者がより良い在宅生活を継続できるよう支援した。

② 健康管理

利用者の健康状態を観察・把握し、健康管理及び健康指導に努め、異常の早期発見早期対応に努めた。緊急時は、家族及び主治医との連携による迅速かつ最善の対応に努めた。

また、感染症予防のための適切な対応及び対策の徹底を図った。

- ア. バイタル測定・状態観察
- イ. 健康相談・体重測定
- ウ. 手洗い・アルコール消毒
- エ. マスク着用・パーテーション設置
- オ. 3密回避への注意喚起・換気

③ 食事

管理栄養士と連携をとりバランスの取れた昼食の提供をした。

また、個々の利用者の状態及び嗜好を把握し、食事内容・形態に配慮した“食”に喜びを感じられるような食事を提供した。

- ア. 食事介助（食事状況の見守り）を行った。
- イ. 嚥下状態及び食事摂取量の観察を行った。
- ウ. 嚥下体操による嚥下訓練を行った。
- エ. 管理栄養士による栄養指導（栄養マネジメント）を行った。

④ 入浴

通所介護計画に沿った入浴サービスを提供するとともに環境整備にも努め、利用者に寄り添う個別対応を提供した。

⑤ 送迎

利用者個人の心身状態及び地理的状况等を考慮した送迎車両・送迎ルートを設定し、無理のない送迎サービスを提供した。また、安全第一を念頭に置いた走行及び車両の定期的な点検・整備を行い、利用者の安全確保に細心の注意を払うとともに車両内外の清掃を徹底し、利用者が快適に乗車できるよう努めた。

- ア. 乗車・下車時の介助を行った。
- イ. 乗車中の状態観察を行った。
- ウ. 迎え時の状態確認・送り時の状態報告を行った。
- エ. シートベルト着用および車椅子固定の確認を行った。

⑥ 介護サービス利用時の相談

利用者及び家族の心配事や悩みへのアドバイス等、各種相談を随時受け付け、連絡帳を活用し個別対応を心掛け、必要に応じて担当ケアマネージャー・地域包括センター等と連絡調整を行い、利用者の在宅生活を支えるとともに家族の介護負担の軽減を図った。

- ア. 生活相談等、各種相談は随時受け付け、対応した。
- イ. 在宅での介護方法についての相談・助言を行った。
- ウ. 家族会は、新型コロナウイルスまん延防止のため、個別対応とした。
- エ. その他、指定通所介護に係る必要な相談援助を行った。

⑦ 活動（レクリエーション等）プログラム

年間活動計画を立て、月ごとに季節の合わせたレクリエーション等、利用者のニーズに合わせた企画・提供を行った。

- ・ デュアルタスクを取り入れた脳内トレーニングを行った。
- ・ 練馬区と連携した環境ボランティア活動（風景①）を行った。
- ・ 練馬区と連携した安全・安心見回りボランティア活動(風景②)を行った。
- ・ 施設庭にて園芸活動(風景③④)を行った。
- ・ 公園などにて四季を感じながら健康促進を図る散策活動を行った。
- ・ 区立体育館でのスポーツ活動は、新型コロナウイルスまん延予防ため、中止とした。

実施月	内容	日程	実施場所
4月	お花見散策会（桜）	上旬	近隣公園
5月	こいのぼり散策	上旬	近隣公園
6月	お花見散策会（バラ）	上旬	四季の森ローズガーデン
7月	七夕祭り	上旬	サポートセンター内
8月	納涼会	中旬	サポートセンター内
9月	防災訓練	1日	避難経路
10月	ミニ運動会	中旬	サポートセンター内
	Jリーグサッカー観戦	9日	味の素スタジアム
11月	紅葉見物会	上旬	近隣公園
12月	クリスマスおやつ会	上旬	サポートセンター内
	年末大掃除	30日	サポートセンター内
1月	初詣神社めぐり	上旬	田無神社等
2月	節分会	上旬	サポートセンター内
	お花見散策会（梅）	中旬	近隣公園
3月	防災訓練	2日	避難経路

- ⑧ 要介護認定の申請の手続きをアドバイス
初めての要介護認定申請の手順について相談並びにアドバイスをを行った。ご本人・ご家族での「申請」が難しい場合、ご本人やご家族に申請の手続きの支援を行った。
- ⑨ アフターフォロー体制
ケアプランに沿ってデイサービスを利用されるようになった後も、ADL（日常生活動作）の維持・向上を目指し、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所と連携のもと、ケアプラン作成の継続ができるようモニタリングを行った。
- ⑩ センター機能構築
若年認知症に携わる団体の中心となり、病院の医師と連携を図り、利用者を支援し、外部家族会・支援団体と情報共有を図り、BPSD（認知症の周辺症状）初期の段階から家族と繋がるセンター機能の構築を図った。
- ⑪ 自治体や各関係機関との連携
東京都・練馬区等、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、社会福祉協議会、福祉事務所、練馬区（まち美化推進係、安全安心係ほか）、地域自治会等との連携に努めた。

（6）運営管理

- ① 職員運営会議
月1回運営上の諸問題を検討及び報告、事業・研修の計画を立てた。
- ② サービス調整会議
利用者のサービス等に係る諸問題を月2回検討した。
- ③ 運営推進会議
新型コロナウイルスまん延防止のため、開催は中止としたが、地域や関係機関との密な連携を保ち、サービスの質を確保することに努めた。
- ④ 事業プランをプロジェクトチームによる実現化
様々な事業プランはプロジェクトチーム化し、より精度の高い事業展開を行った。また、若年性認知症への理解と普及・啓発のサポート（支援）並びに中心的な存在（センター機能）としての役割をもって発信した。
- ◆ オール7プロジェクト（稼働率100%を目標とするチーム）
ケアマネージャー、家族会、地域包括支援センター、若年認知症総合支援センター等へ新規利用者の紹介を開拓し、利用へ繋げた。
 - ◆ いまカラこれカラプロジェクト（若年認知症の相談・普及・啓発）
利用者の家族やケアマネージャー等と情報・意見交換等を行い、利用者と家族の現状と将来を検討した。また意見等を集約し、地域の多職種ネットワーク会や近隣市区の包括支援センターなどへ当施設の日頃の取り組みや現状の諸問題について情報を共有し、課題解決に向けての意見交換や学び合いの機会を作り、若年性認知症についての情報発信・共有を

行い、地域と連携をとり、より良いサービスに繋がるよう努め、若年性認知症への理解と普及・啓発を関係機関に働きかける取り組みを行った。

- ◆ 介護ロボットプロジェクト（助成申請・モニター施設申請）
介護ロボットを導入し、利用者の事故防止のための見守り並びにコミュニケーションツールとして役立てた。
 - ・パルロ（人型見守りコミュニケーションロボット）
 - ・アイボ（犬型愛玩動物コミュニケーションロボット）
 - ・パロ（アザラシ型愛玩動物ロボット）

- ◆ 地域密着配食プロジェクト（独居高齢者、見守り支援）
就労体験型支援として、地域の配食ボランティアグループの配達ボランティアとして、利用者と共に独居高齢者宅への配達業務を行い、地域に貢献し、利用者の社会参加への意欲の向上に繋がった。

⑤防災管理

- ・利用者の安全確保のため、職員に対し消防計画の周知徹底に努めた。
- ・総合防災訓練を夏季冬季に（年2回）実施した。

⑥点検、衛生管理

- ・設備保守点検を行った。〔毎日〕
- ・清掃（居室清掃、トイレ清掃、浴室清掃）を行った。〔毎日〕
- ・保健衛生（消毒）を行った。〔毎日〕

⑦情要望体制

- ・担当者並びに常設窓口設置し、処理体制の整備を行い、真摯に受け止めサービス体制を整えた。

⑧研修

- ・OJT
新任・現任の研修をオンライン並び机上天にて行った。
- ・OFF-JT
都・区・その他の機関の研修は、新型コロナウイルスまん延防止のため、配布資料よる机上天にて行った。

⑨ 職員定期健康診断

- ・職員の健康を確保、維持するため定期健康診断を年1回実施した。
- ・インフルエンザ対応のため予防接種を実施した。

⑩ ボランティア等の受入れ

本年度は、新型コロナウイルスまん延防止のため、受け入れを中止とした。

⑪ 実習生の受入れ

本年度は、新型コロナウイルスまん延防止のため、受け入れを中止とした。

3 実績報告

(1) 利用者状況

① 平均年齢（令和4年3月31日現在）

性別	在籍者数	平均年齢	年齢分布				
			40歳未満	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上
男性	6	57.0			4	2	0
女性	5	63.2			1	2	2
全体	11	59.8	0	0	5	4	2

② 介護度（令和4年3月31日現在）

性別	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	要支援1	要支援2
男性	3	1	1	1	0	0	0
女性	3	0	2	0	0	0	0
全体	6	1	3	1	0	0	0

③ 入所状況（令和3年4月～令和4年3月末）要介護1から5の利用者

性別	入所人数	平均介護度	平均年齢	通所前環境			
				自宅	病院	就労	事業所他
男性	2	1	57.5	2	0	0	0
女性	3	1.7	62.0	3	0	0	0
全体	5	1.4	60.2	5	0	0	0

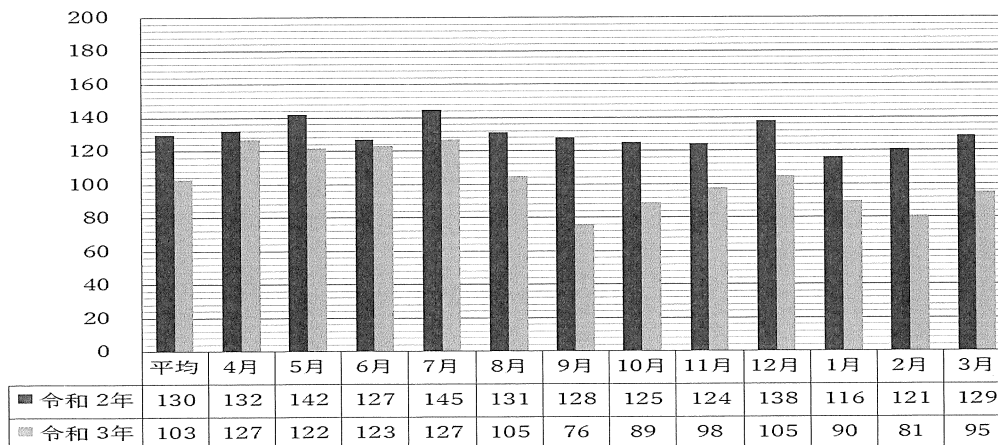
④ 退所状況（令和3年4月～令和4年3月末）要介護1から5の利用者

性別	退所人数	平均介護度	平均年齢	通所日数	退所理由			
					入院	他施設入所	他事業所	その他
男性	3	3.3	66.0	13.6	1	2	0	0
女性	1	1	65.0	15.6	0	1	0	0
全体	4	2.8	65.8	14.0	1	3	0	0

⑤ 障害手帳の取得状況（令和4年3月31日現在）

性別	取得者数	平均年齢	年齢分布				
			40歳未満	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳以上
男性	4	56.8	0	0	3	1	0
女性	1	62.0	0	0	0	1	0
全体	5	57.8	0	0	3	2	0

⑥ 利用実績状況



⑦主な活動風景

- 区と連携した環境ボランティア
「たばこのポイ捨て禁止」美化活動

①



- 「安全・安心見守りパトロール」に出展
練馬区役所にてポスター展示見学

②



- 園芸クラブ活動：施設庭の草花の手入れ・清掃作業

③



④



- 社会参加型支援活動：文書封入作業・年末大掃除作業

⑤

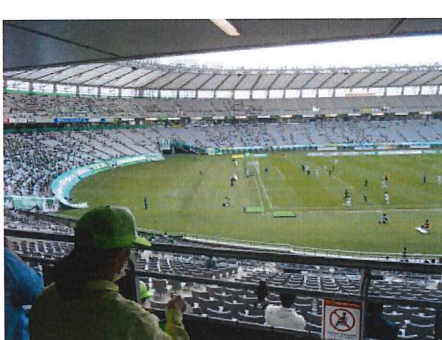


⑥



- レクリエーション行事：味の素スタジアムサッカー観戦・納涼会

⑦



⑧

